



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第四〇七号）

しょうせつ  
小雪 十一月二十二日

## 江戸時代の伊勢西国手引き

急に冬が来たような寒さ。今年は冬が急ぎ足でやってきました。

今年、伊勢西国三十三所観音巡礼をまとめた一冊を上梓しました。近畿一円を巡る西国三十三所観音巡礼の三重県版といったお参りです。本尊が観音像の寺を、伊勢神宮の周辺から桑名市の多度大社まで、県を北上するルートを取り、じつに十四市町を巡ります。観音巡礼の寺はいずれも古い歴史を持ちますが、江戸時代の観音巡礼の案内記は、元菰野藩士の「横山家」から見つかっていますが、このたび、拙著を読んだ方から、伊勢河崎の「和具屋」にも、手引書があると教えてもらい、訪ねました。

伊勢河崎の和具屋は、江戸時代から続く勢田川沿いの陶器問屋さん。三和土の通路にはかつて荷物を運んだレールが残っています。御主人の大西佐一さんに、手引書を見せてもらいました。

和綴じの手引書は、横十二、五センチ、縦九、五センチの横長の小ぶりなもの。けれど厚みは二、五センチと分厚いのです。ここには伊勢西国だけでなく、伊勢神宮の摂社末社から、稲荷、地藏、阿弥陀などの寺社巡りについて記されています。残念ながら、年代は記されていませんが、大西さん曰く、「おそらく天保十二年に記した帳面とよく似た筆跡です。この頃かと思われます」とのこと。江戸時代の人々がお参りした伊勢の寺社がずらりと載っています。

伊勢西国は、第〇番、地名、山号寺号、観音の種類、そして、ご詠歌が、一ページに二寺ずつ書かれています。ていねいな字できちんとまとめられており、著者の人柄もうかがえます。平成十八年に再編成された現在の巡礼とは異なる寺も見られます。伊勢は明治時代の神仏分離で、二百近い寺が廃寺になっていますから、かつての伊勢の町の様子も伝えているかのようにです。

文 千種清美



# おかげの里便り

## おかげ横丁

### ○ 福人「<sup>たつ</sup>辰年生まれ」募集

年間を通して、催事が多いおかげ横丁では、その年の年女・年男の方を「福人」とし、おかげ横丁の催しにご協力いただいております。

伊勢へお越しのお客様に、福人として「福」をお配りし、催しを盛り上げていただく方を募集します。

任 期／令和5年12月31日(日)～令和6年12月30日(月)

ご参加いただく催事(予定) ※催事内容が変更や中止となる場合がございます。

- ① 令和6年 2月 3日(土) 節分…宝船の絵と福豆の配布
- ② 令和6年 9月29日(日) 来る福招き猫まつり…吉兆招福鈴の授与
- ③ 令和6年12月21日(土) 冬至…いとこ煮のお振る舞い

その他、年間を通じておかげ横丁の魅力発信にご協力いただきます。

※すべての催しにご参加いただくわけではございません。事前にご参加の有無をお伺いします。ご参加可能な方が定員を超えた場合は抽選で決定します。

#### お申し込み／

氏名・年齢(生年月日)・性別・住所・電話番号・FAX番号を記入の上、郵送またはFAXでお申し込みください。

〒516-8558 三重県伊勢市宇治中之切町52

おかげ横丁 福人募集係

FAX 0596-23-8814

募集期間／令和5年12月8日(金)まで

問い合わせ／おかげ横丁 福人募集係 電話 0596-23-8827

## 五十鈴塾

### ○ 秋の星見とプラネタリウム紀行

秋の星空には、秋の大三角やカシオペアなどの有名な星座が見えています。さらに今年は土星と木星が見えています。晴れたらレーザーで秋の星座をたどったり、望遠鏡で木星や土星をご覧いただきたいと思います。2023年10月21日近代プラネタリウムが始まってから100年となり、世界的な100周年のイベントが始まりました。ドイツで行われた記念式典や特別展示の様子をご紹介します。海外のプラネタリウムについてお話しします。

日 時／11月29日(水) 18:30～20:30

講 師／毛利 勝廣 (名古屋市科学館学芸課天文主幹・学術博士)

参加費／一般 1,700円 会員 1,200円 (五十鈴茶屋製の和菓子付き)

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

## 五十鈴茶屋

### ○ 五十鈴茶屋節気菓子

じょうよ  
みさか薯蕷

12月の月次祭(つきなみさい)にお供えする御料酒が、うるわしく醸成できるよう、お祈りを捧げるのが御酒殿祭(みさかどのさい)です。山芋生地に酒と麴を加え、粒餡を包みました。ほんのりとお酒の香る味わいが特長です。

さざんか  
山茶花

唱歌の「たき火」にも唄われる山茶花は、椿の中でも唯一日本原産の花です。こし餡を山芋入りの練りきりで包み、やさしい山茶花に仕上げました。初冬の花便りです。。

ぎんなんもち  
银杏餅

神宮工作所の银杏(いちろう)並木もすっかり黄色い衣を落とし、木枯らしが吹く季節を待つころとなりました。银杏のかすかな風味と粒餡を餅皮で包みました。